

秋葉区(新津地域)における景況調査の結果概要(2024年10月~12月期)

- 1.調査対象 100事業所(有効回答数99社、回答率99%)
- 2.対象期間 2024年10~12月期実績 及び 2025年1~3月期の見通し
- 3.調査結果の概要

今期の景況調査では、全業種で業況DI値が悪化し(前期-42.3 → 今期-48.5)、事業者の景況感は依然として厳しい状況にある。特に仕入単価DI値(前期-59.8 → 今期-77.8)の悪化が顕著で、原材料費の高騰が経営に大きな負担を与えている。一方で、売上高DI値(前期-11.3 → 今期-2.0)は改善しており、一部の業種では回復の兆しも見られる。

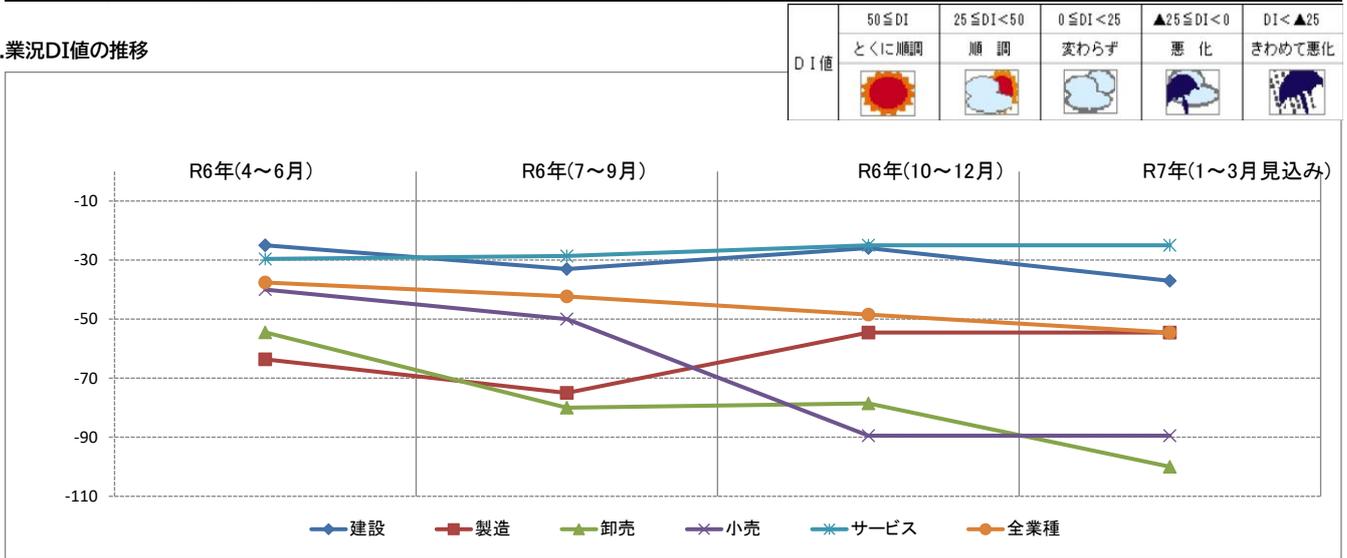
業種別では、建設業で仕入単価DI値が-100.0となり、価格上昇による影響が大きい。また、製造業の採算DI値も-100.0と極めて厳しい。小売業では需要低下が続き、業況DI値が-89.5まで悪化した。一方で、サービス業では売上高DI値(前期0.0 → 今期35.7)と採算DI値(前期-28.6 → 今期3.6)が改善し、一部業種で回復が見られる。

また、価格高騰の影響を受けた企業は72%と増加し、経営環境の厳しさを反映している。設備投資では「OA機器」が最多で、来期は「生産・販売等の機械設備」の導入意向が高い。全体として、人件費や仕入単価の上昇が大きな経営課題となっており、今後の推移が注目される。

4.業種別項目別のDI値※()は見通し

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
売上高	△ 14.8 (△ 44.4)	△ 27.3 (0.0)	△ 21.4 (△ 42.9)	△ 10.5 (△ 52.6)	35.7 (0.0)	△ 2.0 (△ 28.3)
仕入単価	△ 100.0 (△ 70.4)	△ 100.0 (△ 72.7)	△ 78.6 (△ 78.6)	△ 68.4 (△ 68.4)	△ 53.6 (0.0)	△ 77.8 (△ 51.5)
採算	△ 37.0 (△ 44.4)	△ 100.0 (△ 72.7)	△ 21.4 (△ 42.9)	△ 100.0 (△ 100.0)	3.6 (△ 14.3)	△ 42.4 (△ 49.5)
資金繰り	△ 14.8 (△ 37.0)	△ 27.3 (△ 54.5)	0.0 (△ 42.9)	△ 52.6 (△ 52.6)	△ 17.9 (△ 17.9)	△ 22.2 (△ 37.4)
従業員数	△ 25.9 (7.4)	0.0 (0.0)	△ 21.4 (0.0)	31.6 (31.6)	△ 32.1 (7.1)	△ 13.1 (10.1)
業況	△ 25.9 (△ 37.0)	△ 54.5 (△ 54.5)	△ 78.6 (△ 100.0)	△ 89.5 (△ 89.5)	△ 25.0 (△ 25.0)	△ 48.5 (△ 54.5)

5.業況DI値の推移



6. 価格高騰による企業活動への影響について

影響は継続している	影響は出たが、既に収束した	今後影響が出る可能性がある	影響なし
72%	2%	19%	7%